

建築学科 准教授 石川恒夫

上毛 平成21年12月 2日 (水)

巣づくりの住まい

4

石川 恒夫

単にコストの問題では回復に要する時間とエネルギーを請求しないことも考慮しなければなりません。自然は循環の鎖の中で、「ごみ」という概念を持っていないのです

自ら参加しコスト減

例えば、できること(ワックスがけ、内外部の塗装、壁塗りなど)を自分たちでやることで、手間を省き、コストを下げることは十分可能です。その点、自然素材は扱いが比較的容易です。

から。

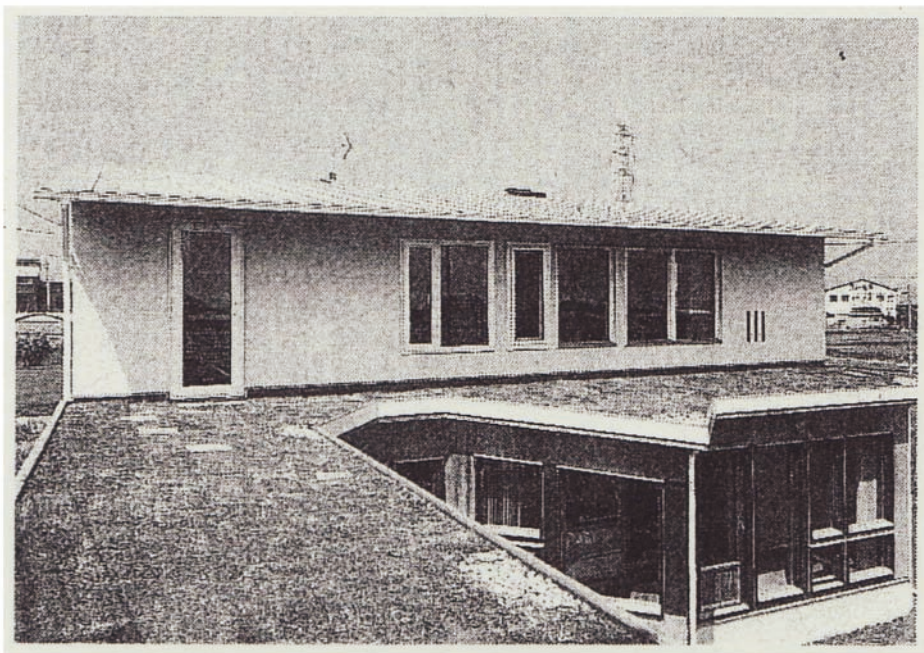
健康や環境対策は、お金だけで推し量れないところこそ意味があり、その価値に単なる経済性を超えるものを見いだす必要があるでしょう。それは、自分のことだけでなく、次世代に「いのち」を継承していく責任を意識することでもあります。

そのために「巣づくりの住まい」の意識を向上させていきましょう。例とを考えてみませんか。

▲手作り屋上緑化の家

■吉岡町

(前橋工科大学大学院准教授・石川恒夫)



自然素材で健康、エコ

できるだけ健康な住まいが欲しいと願うお客さまから「自然素材はいいけれども、高づくのではないか」とよく聞かれます。数千万円のお金があつたのでやむを得ませんが、本当は奇妙な問いです。出資額は住まいという「もの」への思い入れ、価値の表明ですから、そこに投資する意味があると判断すれば、それに見合った金額が提示されるはずでしょう。

住まいづくりをトータルにとらえるならば、それは「高づく」とは限りません。もしも建物が原因で快眠できず、病気になれば、医療費負担が発生します。さらに、慢性的にアレルギーなどで苦しむ事態になるとすれば、そしてこれは今日、